

乗雲

寺報
第77号

東司の仏法

禅宗の修行道場には必ず「東司とうす」があります。七堂伽藍(山門、仏殿、僧堂、庫院、法堂、浴室、東司)の一つで、永平寺では山門の左手にあります。一般にいうお手洗い(トイレ)のことです。京都東福寺の東司は、室町時代にできた貴重なもので重要文化財になっていて、奥行きが約30メートルもあり、百間東司と呼ばれています。

曹洞宗の開祖で大本山永平寺を修行の道場としてお開きになられた道元禅師は「正法眼蔵洗淨(しようぼうげんぞうせんじょう)」「の巻を撰述され、身心の清淨と国土の清淨をお示しになっていきます。永平寺に上山すると、まず一番に身に付けさせられる修行がお掃除で、特に陰徳を積む修行として便所掃除を重んじています。

H21.11.1 発行

編集人

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町 2-8
TEL0254-43-2419
FAX0254-43-4560
広蔵寺
住職 神田英俊

メール
otera@kogonji.jp

七堂伽藍の中でも、特に僧堂・

東司・浴室は三黙道場と呼ばれ一切の私語は禁止されている。東司には守護の烏樞沙摩(うすさま)明王が祀られている。昭和五十五年十月、行啓された皇太子・同妃両殿下(現、天皇陛下、同皇后陛下)を永平寺七十六世秦慧玉(はたえぎよく)禅師は自らご案内し、永平寺の東司をご説明されました。身心のみならず、国土の全てが浄くなるという道元禅師の教えに両殿下はとても感激されたといわれています。

トイレのことを「雪隠(せつちん)」と呼ぶことがあります。由来を調べてみると、中国の宋の時代、浙江省の靈隱寺に雪竇重顕(せつちようじゆうけん)という修行僧がおられた。だれも好まない便所掃除を雪竇は毎日毎日、人知れず黙々とされていた。修行の中でも最も尊い「陰徳」を積んでいた

のです。いつしか、雪竇がいつも陰徳を積んでいるところ、隠れて掃除をしているところが便所であつたため、「雪隠」と呼ぶようになったそうです。自分はいつでも便所掃除をしていると人に知らしめるのではなく、誰も見ていないところで黙々と功德を積み続けることは中々誰でもできることではありません。

九月末に先住十八世洞光大和尚の法要で、平成十八年御征忌焼香師以来三年ぶりに檀信徒と共に永平寺に参籠してきました。どこもかしこも掃き浄められ塵一つ無い諸堂や廻廊、境内等、道元禅師の時代から七百年経つているが今も変わらぬ修行が続けられていました。

「その家を知らば、玄関と便所を見よ」との言葉があります。きれいに揃えられた履き物はその家の人々の心が揃い、思いやりをもって綺麗に磨かれたトイレは使う人の心まで美しくします。

東司掃除は仏道成就の為に一番の修行、毎日の生活に欠かせないトイレ、綺麗に使いましょ。

平成22年度 年回表

「回忌」	「没年」
一周忌	平成二十一年
三回忌	平成二十年
七回忌	平成十六年
十三回忌	平成十年
十七回忌	平成六年
二十三回忌	昭和六十三年
二十七回忌	昭和五十九年
三十三回忌	昭和五十五年
五十回忌	昭和三十六年
百回忌	明治四十四年

* 来年の年回忌のご案内は、十二月中に正当の各家に通知いたします。

* 日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお願いたします。

「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちょうど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考えて、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は丸六年めが七回忌となる。